

来週の『売り物』記事はこれ



2013年2月22日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

武装する教師……

米国 銃社会の「衝撃」 朝刊 24日（日）



昨年12月、全米に衝撃を与えたサンディフック小学校銃乱射事件。児童ら26人が犠牲になりました。犯人の20歳の男は殺傷力の強い半自動式ライフルを子どもたちに向けて撃ちまくり、その場で自殺……。サンディフックの惨劇後、全米では銃規制の声が巻き起こり、2期目をスタートさせたオバマ大統領は今年12日の一般教書演説で規制強化の考



えを表明しました。ところが、一方で「銃には銃を」とばかりに、教師を対象にした銃講習会は大盛況で、銃の即売会も人気急上昇中です。一見すると相反する動きですが、実は「銃信奉」という根っこの部分は変わっていないようです。知られざる銃社会、米国の現実を本紙特派員が徹底ルポしました。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

「時代を駆ける」震災2年特集第一弾

南三陸ホテル観洋の女将、阿部憲子さん

26日から3月2日



東日本大震災からまもなく2年。連続インタビュー「時代を駆ける」では、被災地で復興に向かって「駆ける」人たちをシリーズで取り上げます。1回目は宮城県南三陸町にある南三陸ホテル観洋の女将、阿部憲子さん（50）＝写真＝です。震災直後から多数の被災者をホテルに受け入れるとともに、町の復興のために観光業はどうあるべきかを考え、様々な取り組みを続けています。

Jリーガーの「引退後」を考える — 「月刊サッカー」2月号

26日掲載

特集ページの月刊サッカー（26日掲載）は、現役引退したJリーガーのセカンドキャリア（第二の人生）を取り上げます。子供のころからサッカーひと筋で生きてきたトッププロが、新たな別の道に踏み出すことは簡単なことではありません。昨シーズン限りで引退し、ボートレーサー（競艇選手）としてデビューする日を夢見る元ヴィッセル神戸の朴康造選手の挑戦の日々を追います。

インタビューは、8年ぶりに古巣に戻ってきた鹿島アントラーズのトニーニョ・セレーゾ監督です。チームをかつてJリーグ初の年間3冠（Jリーグ、ナビスコ杯、天皇杯）に導いた名將に、「王者」再生の秘策を聞きました。



大阪2児放置死事件 読者の反響

くらしナビ生活面 26日(火)



大阪市のマンションに幼い姉妹を放置し、死なせた母親(25)の生い立ちなどから事件の背景に迫った連載「いいママになりたかった」(1月23、24日)に、児童養護施設の元職員やシングルマザーの方など多くの読者から反響をいただきました。事件を題材にした曲「Hands(ハンズ)」を作ったヒップホップグループ「ライムスター」のメンバーのお話とともに紹介します。

もう一度食べたい「ローケンパン」

くらしナビ食べる面 26日(火)

「透明な袋に4個ほど入った白いパン。『ローマン』とか『ローケンパン』と呼ばれていました……。読者からこんなお便りをいただきました。岡山県内で昭和30年代まで売られていたという情報をもとに調べていくと、大正時代、労働者のための安価で栄養のある主食として開発された蒸しパン「労研饅頭」に行き着きました。どんな味か、その由来は?



変わる薬局、サービスさまざま

くらしナビ生活面 28日(木)



薬を調合したり、売ったりするだけの印象が強い薬局が大きく変わりつつあります。最近では薬や栄養剤を自宅に届けたり、薬の適切な飲み方をアドバイスする在宅訪問薬剤師も活躍し始めています。高齢になると薬局や病院に行くのも大変。高齢化時代の新しい薬局の形を取材しました。

長女 ぼたんさんが語る 市川團十郎 最期の日々

夕刊特集ワイド 25日(月)

江戸歌舞伎を代表する市川團十郎さん(享年66)が2月3日に亡くなった。團十郎さんは04年春、57歳の時、白血病を発病。以来、何度も病に倒れながらも、ひとたび舞台に上れば闘病のつらさはみじんも見せなかった。昨年12月に肺炎を患い入院した父を泊まり込みで看病した長女の市川ぼたんさん(33)＝写真＝は「舞台が死期を早めたと言われればそうかもしれない。でもそんな風に生きなかつたら、父の人生は何だったのか」と語る。

